



# 校長室だより

第 1 5 号

令和3年7月2日(金)

大崎市立沼部小学校

校長 吉田 浩之

## 心をこめてあいさつする子ども

早いもので、令和3年度がスタートして3か月がたち、7月を迎えました。昨年だと学校が再開して1か月だったなあと思い返しているところです。感染者数が宮城県では減少傾向にあるようです。そのような状況下で、4月からスタートできていること、まだまだ制約がある中ですが、通常通りの教育活動ができていることがうれしく思います。

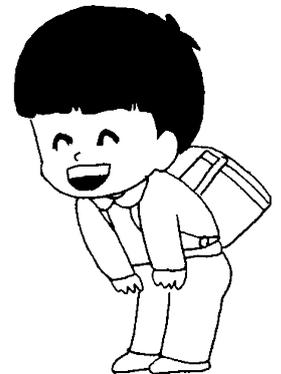
さて、ぬまっこの「こ」は「心をこめてあいさつする子ども」です。本校に着任して、最初に感じたことが、「挨拶がしっかりできる子供たちだな。」でした。これまで、ずっと取り組んできたことが、成果として表れているのだろうと感心しています。6月30日に指導主事学校訪問があり、本校の子供たちは、来校者に元気よく、「こんにちは。」挨拶していました。その様子を見て、来校された指導主事の先生方から、「挨拶がすばらしいですね。」と褒めていただくと同時に、「これほど子供たちから歓迎されたことがない。」と大変感動していました。私はその話を聞いてとてもうれしくなりました。

毎朝、昇降口で子供たちと挨拶を交わしています。子供たちの元気な挨拶を聴くと、私も「今日も頑張ろう。」という気持ちになります。特に6年生の挨拶がすばらしいなあと感心しています。さすが、ぬまっこ最上級生ですね。中には6年生に限らず、きちんと立ち止まって、お辞儀をしながら挨拶をしてくれるお友達もいます。

挨拶するときには大事なことは

- 自分からあいさつをする
- 相手に伝わるようにあいさつする
- 誰にでもあいさつする

ことだと思えます。



私の家の近所の子供たちが、休みの日などに会うと、元気よく挨拶してくれます。進んで挨拶をしてくれる子供を見ると、「めんこいなあ」と思うのは私だけでしょうか。「めんこい」と思うと地域の方々も、子供たちに声を掛けてくれるなど、温かく見守ってくれます。地域の皆様に育ててもらっていることにもなります。

あるテレビ番組で、こんなことが紹介されていました。誘拐されそうになったお子さんが、とっさの行動で難を逃れた、ということです。誘拐されそうになったお子さんが、「誘拐されそうです。」と言えず、近くにいる大人に必死になって挨拶したそうです。その姿を見た誘拐犯は、「この子は、この近辺に知っている大人が多い。」と思い、顔が知られるとまずいと、逃げてしまったそうです。

不審者の出没などの事案も発生しているため、誰にでも気軽に挨拶すること自体難しい時代であることも事実です。それでも、挨拶は心と心をつなぐ大切な気持ちの表れです。心をこめた挨拶の輪がさらに広がりますように。

沼部プランでは、「丁寧な言葉づかいができる子どもにします。」とうたっています。丁寧な言葉づかいについては、もう少し、と思うことがあります。時と場に応じた言葉づかいができるよう、学校では指導してまいりますので、御家庭でも「丁寧な言葉づかい」について話題にいただくと、ありがたいです。